

正誤表（達成状況評価）

87：人間文化研究機構

No.	頁数	誤	正	修正事由
01	p.9	2021年10月2日にオンラインにてマレガ・プロジェクト&別府大学学術・教育連携事業〔公開講義〕「豊後国のキリシタン・類族とマレガ資料」を開催した【資料1-1-1-3-a】。	2021年10月2日にオンラインにてマレガ・プロジェクト&別府大学学術・教育連携事業〔公開講義〕「豊後国のキリシタン・類族とマレガ資料」を開催した【資料1-1-1-3-a, <u>1-1-1-3-f</u> 】。	別添資料の記載が漏れていたため。
02	p.13	そして愛知大学大学院中国研究科の入試問題の題材として採用されこと、	そして愛知大学大学院中国研究科の入試問題の題材として採用され <u>た</u> こと、	脱字があったため
03	p.18	そして愛知大学大学院中国研究科の入試問題【資料1-2-1-5-e】の題材として採用されこと、	そして愛知大学大学院中国研究科の入試問題【資料1-2-1-5-e】の題材として採用され <u>た</u> こと、	脱字があったため
04	p.35	目標とする毎年度5名（第3期中の合計30名）以上の派遣に対して、4年目終了時の時点で、25名（達成率83%）となっていたが、新型コロナウイルス感染症の影響により、海外への渡航ができなくなった。そのため、渡航予定だった者に対する代替となる研究支援制度として、国内での調査や必要な資料の購入支援を行い、3名の若手研究者を支援した。目標とする数値の達成はできなかったが、現状を踏まえた支援	目標とする毎年度5名（第3期中の合計30名）以上の派遣に対して、4年目終了時の時点で、25名（達成率83%）となっていたが、新型コロナウイルス感染症の影響により、海外への渡航ができなくなった。そのため、渡航予定だった者に対する代替となる研究支援制度として、国内での調査や必要な資料の購入支援を行い、3名の若手研究者を支援した。目標とする数値の達成はできなかったが、現状を踏まえた支援	別添資料の記載が漏れていたため。

正誤表（達成状況評価）

		策を策定することで、若手研究者の育成という所期の目的を達成することができた。	策を策定することで、若手研究者の育成という所期の目的を達成することができた【資料3-2-1-4-a, 3-2-1-4-b】。	
05	p.37	(『国立歴史民俗博物館研究報告』218・228・229・234集 2019～2022年)	(『国立歴史民俗博物館研究報告』219・228・229・234集 2019～2022年)	誤字があったため